

バイカモ主役 祭りにカモン

白石市の経済人らで構成する百白プロジェクトは29日、同市中町の寿丸屋敷を主会場に「百白 白石梅花藻祭り」を開く。市内の沢端川に自生するバイカモの保全活動に取り組む白石高の研究成果をた

たえ、恒例となった祭りの名称を変更し「梅花藻」を加える。当日は同校の生徒が活動内容を報告する。

白石高自然科学部生物班は5年前からバイカモの研究に力を入れ、水温、水流など適切な生育環境を調査してきた。今年3月には地域課題の解決策などを披露する全国高校生マイプロジェクトアワードに出場。対外的な情報発信にも積極的に取り組んでいる。

当日は寿丸屋敷で午前と午後の2部制で研究成果を発表。今回は水槽に入れたバイカモも披露する。「二本木さんは「川の中だと遠くから眺めるだけになってしまいが、間近で見られる貴重な機会なので足を運んでほしい」と呼びかける。

白石で29日・初夏の恒例行事の名称変更

白石高の保全活動たたえる

祭りはこれまで、「百白祭り初夏の陣」と銘打って開催していた。主催する百白プロジェクトの村上睦夫さん(71)は「市民の皆さんにバイカモの貴重さを知ってもらおうきっかけにしたい。いろいろなイベントとともに楽しんでほしい」と語る。

午前10時〜午後4時。マルシェや白石工高生バンドらによる演奏、まち歩きもある。28日には寿丸屋敷で前夜祭が開かれる。連絡先は山田乳業内の事務局02224(26)3181。

バイカモの展示水槽を準備する生徒ら=白石市の寿丸屋敷

